

第二次 長崎県地域医療再生臨時特例基金事業  
補助金医療教育開発センター構築事業について

【平成 25 年度 事業報告書】

平成 26 年 4 月 4 日現在

国立大学法人 長崎大学（医学部、病院）  
独立政法人国立病院機構長崎医療センター  
佐世保市立総合病院

## 【目次】

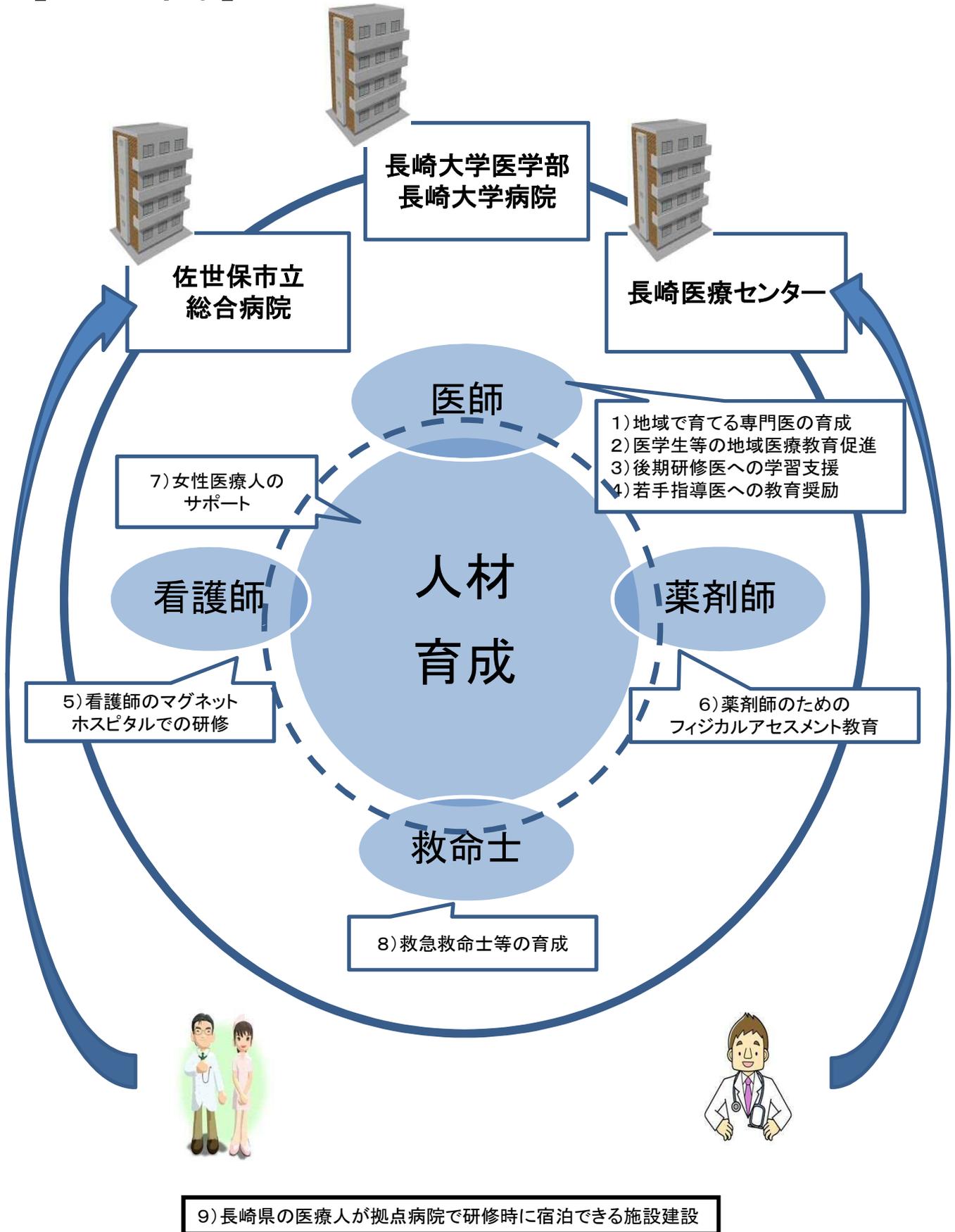
1. 全体概要	.....	2
2. 事業1) 地域で育てる専門医の育成	.....	4
3. 事業2) 医学生等の地域実習促進	.....	5
4. 事業3) 後期研修医への学生支援	.....	7
5. 事業4) 若手指導医への教育奨励	.....	8
6. 事業5) 看護師のマグネットホスピタルでの研修	.....	9
7. 事業6) 薬剤師のフィジカルアセスメント教育	.....	12
8. 事業7) 女性医師・医療人のサポート	.....	13
9. 事業8) 救命救急士等の育成	.....	14

## 長崎県地域医療再生臨時特例基金による 医療教育開発センター構築事業 全体概要

### <コンセプト>

- ① 長崎県の医療職を対象とした人材育成とキャリア開発を行う。
- ② 各分野の継続可能な既存の萌芽的プロジェクトを発展させる。
- ③ 医師のキャリアの各段階を支援する。
- ④ 3拠点(国立大学法人 長崎大学(医学部, 病院)、独立行政法人 国立病院機構 長崎医療センター、佐世保市立総合病院)を中心に県内における教育ソフト実施のための、宿泊・研修施設までを含めた事業である。

# 【9つの事業】



事業 1) 地域で育てる専門医の育成	事業責任者 長崎大学病院 医療教育開発センター センター長 浜田 久之
-----------------------	---

【事業概要】

長崎県の地域の医療機関で研修する研修医や若手医師に質の高い医学教育の機会を与えるために、大学病院指導医と研修医を地域医療機関に派遣し、診療応援を兼ねた医療人育成のための外来業務を行い将来の専門医を育成する。

さらに、受け入れ病院の大学でのリフレッシュ専門研修を促進し、大学専門医4名を雇用する。

この事業の目的は、

- ① 研修医・若手医師が、地域で働く医療人となるために、大学指導医より専門外来及びプライマリケア外来における技術、知識、態度を学ぶ。
- ② 大学指導医は教育者としてのキャリアアップのために、地域において医学教育を行う経験を積む。

【平成 25 年度計画】

- ① 事業に協力する医師（地域診療応援）への支援
- ② 事業を推進する医師（地域担当）への支援
- ③ 専門シミュレータ教育に関する図書、消耗品の購入等を支援
- ④ 平成 23 年度以前はまったく実施していない

【平成 25 年度実績】

外来研修先	回数	研修医数	患者数
済生会長崎病院	51回	49人	210人
長崎県上五島病院	53回	53人	156人
長崎記念病院	50回	48人	168人
長崎県島原病院	89回	85人	284人
北松中央病院	48回	46人	114人
総計	291回	281人	932人

平成 26 年 4 月 3 日現在

- ① 地域病院で、研修医 1 人あたり 4～6 回の外来研修に臨み、大学病院では経験できない専門外来及びプライマリケア外来における技術、知識、態度を学んだ。  
また、医師を派遣することにより地域医療を支援した。各地域病院は今後も継続を希望している。
- ② 大学指導医 6 名を派遣した。  
指導医は、地域医療における医学教育を学ぶとともに、全員が指導医講習会を受講し、教育者としてのスキルアップを図った。
- ③ 平成 25 年度は 13 名の研修医がのべ 19 ヶ月間、外来研修先病院を地域研修病院として選択し研修した。  
(内訳：済生会長崎病院 4 名、長崎記念病院 2 名、長崎県上五島病院 7 名)

<p>事業2) 医学生等の地域実習促進</p>	<p>事業責任者 長崎大学 保健・医療推進センター 前田 隆浩</p>
<p>【事業概要】</p> <p>医療系学部学生に質の高い地域医療教育の機会を提供するために、長崎県離島を中心に地域包括医療の教育フィールドを整備し、低学年の early exposure から高学年の診療参加型臨床実習に至るまで、学年に応じて段階的に学ぶことのできる教育環境をつくる。この教育フィールドを活用して、地域医療の一貫教育と医・歯・薬学部の共修によるチーム医療教育を推進し、地域のニーズに応え社会発展に貢献しうる将来の地域医療人を育成する。</p>	
<p>【平成 25 年度計画】</p> <p>① 地域医療教育体制の拡充 多職種による教育体制を整備し、要所に事務補佐員を配置して連携を強化するとともに、教育フィールドを拡大して地域医療教育の充実を図る。</p> <p>② 地域医療教育の推進</p> <p>③ 教育担当者と医・歯・薬学部生に対する支援</p> <p>④ 地域医療教育支援サーバーの更新・整備</p> <p>⑤ 教育用資材の購入と資料の作成</p> <p>⑥ 講演会・シンポジウム等の開催 地域医療への理解を深めるとともに、学生と地域医療従事者との連携を強化する。</p> <p>⑦ 事業成果の評価と発信 本事業を評価し、次年度以降の取組に反映させる。また、報告書の作成と配布、関連学会等での発表などによって事業成果を発信する。</p>	

【平成25年度実績】

① 地域医療教育体制の拡充

多職種による教育体制の整備ができ、事務補佐員を配置して連携を強化することができ、教育フィールドを拡大して地域医療教育が充実した。

② 地域医療教育の推進

医学科1・2・3年次を対象とした地域医療ゼミ（1年生：10人、2年生：8人、3年生7人。合計25人参加）を行った。また、医学科5年次全員（101人）に離島医療実習（下五島、上五島、対馬）と地域中核病院実習（長崎市、諫早市）をそれぞれ1週間ずつ行った。また医学科6年次の希望者に高次臨床実習を1カ月行った（離島病院：12人、地域中核病院：31人）。このように、地域医療の現場で実習・ゼミを行うことにより、学生の地域医療への理解が深めることができた。

③ 教育担当者と医・歯・薬学部に対する支援

地域医療フィールドに赴き、医・歯・薬学部の教育担当者と教育実習担当者との間で意見交換を行った。出た意見を元にフィードバックし、よりよい地域教育を行うことができた。

④ 地域医療教育支援サーバーの更新・整備

地域医療教育に関連した情報をリアルタイムで共有できることで、大学、地域、学生等との連携が強化されて、効率的な事業運営が可能となった。

⑤ 教育用資材の購入と資料の作成

地域医療に関する資料などの充実により、教育の質が高まり地域医療教育が可能になった。

⑥ 講演会・シンポジウム等の開催

先進的な地域医療教育を実践している大学・地域中核病院の担当者を招いての講演会（地域医療フォーラム：1回）を実習担当者と学生を対象に行い、地域医療教育への理解がさらに深まった。また地元に着して地域医療を実践されている医師を招いての講演と地域卒学生による発表（地域医療研究会：5回）を学生を対象に行った。このことで地域医療への関心が高まった。

⑦ 事業成果の評価と発信

当事業の成果を関連学会等では発表するとともに、報告書を全国の大学医学部・医科大学等へ配布した。

<p>事業3) 後期研修医への学習支援</p>	<p>事業責任者 長崎大学病院 医療教育開発センター センター長 浜田 久之</p>
<p>【事業概要】</p> <p>長崎県で、初期研修を修了した卒後3年目の医師（毎年60～70名前後）が、後期研修を開始する。後期研修は、診療科や病院により定義が明確ではないが、およそ3年間に研修期間として、主に専門医資格等獲得を目指している。</p> <p>おおよそ卒後5～15年に専門医資格等を取得する。また、資格を取得するには、学会や講習会などへの参加が必要である。しかし、忙しさや学会等が遠方であるがために、専門医修得への意欲が薄れることがみられる。この事業の目的は、専門医試験の受験を促進することである。</p>	
<p>【平成25年度計画】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 後期研修医への学習支援金支給</li> <li>② 後期研修医のための医療情報雑誌の発刊</li> <li>③ 専門医未取得者の専門医取得のための資格試験の旅費および資格登録費用支援。</li> <li>④ 専門医未取得者の専門医取得のための学会や講習会の参加費用及び旅費などを支援。</li> <li>⑤ 研修病院が、専門医修得に役に立つ学習教材等の購入する費用等の支援。</li> </ol>	
<p>【平成25年度実績】</p> <p><u>長崎県内の後期研修医数（卒後3年目）は、平成24年度68名、平成25年度77名で、前年比114%、平成26年度89名で前年比114%とアップした。</u></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 長崎県の後期研修医（卒後3年目）77名に対し、専門医修得コースを促した。</li> <li>② 長崎大学後期研修医（卒後3年目）66名専門医修得コースに登録した。</li> <li>③ 長崎大学後期研修医（卒後3年目）の全員がコースに登録し、約8割が関連学会に参加し、専門医修得への学習を開始した。</li> <li>④ ③に対し学習支援を行った。</li> </ol>	

<p>事業4) 若手指導医への教育奨励</p>	<p>事業責任者 長崎大学病院 医療教育開発センター センター長 浜田 久之</p>
<p>【事業概要】</p> <p>大学病院における若手医師が臨床を行う医師としてだけでなく、指導者として、学生や研修を指導することは非常に重要である。屋根瓦のように、研修医が学生を教え、若手医師が研修医を教えることは、非常に学習効果がある。また、教え方の質を高めるために、指導医講習会等へ参加することが重要である。さらに、現在は、様々な学習ツールがあり効果的に教えることができる。たとえば、iPad や小型パソコンを端末として利用し、様々な医療教育ソフトを利用すれば、いつでもどこでも、視覚的に印象づけられる臨床教育ができる。この事業の目的は、</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 若手指導医が、指導医講習会等へ参加し、教育力を高めることを促進する。</li> <li>② 若手指導医が、最新の教育ツールを使用して効果的な教育を促進する。</li> </ol>	
<p>【平成 25 年度計画】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 指導医の育成（若手医師に対する教育力向上支援）</li> <li>② 研修医指導者として活躍する若手指導医への教育奨励金支給</li> <li>③ 指導医資格の促進、教育研修参加の促進</li> </ol>	
<p>【平成 25 年度実績】</p> <p>①平成25年度は、7月、8月そして11月に長崎大学病院主催指導医講習会を開催し、合計で118名の参加があった。</p> <p>参加者の内訳は、長崎大学病院78名、長崎医療センター8名、長崎市民病院8名、佐世保市立総合病院8名、健康保険諫早総合病院4名、対馬いづはら病院3名、済生会長崎病院2名、長崎原爆病院1名、長崎県島原病院1名、上五島病院1名、長崎記念病院1名、佐世保共済病院1名、長崎掖済会病院1名、そして県外から嬉野医療センターより1名で、参加者全員が指導医の資格を取得した。</p> <p>今年度も、指導医講習会を修了した指導医に対し支援を行い、教育書籍等の購入や研究会参加費用として役立てることが出来た。</p>	

<p>事業5) 看護師のマグネットホスピタルでの研修</p>	<p>事業責任者 長崎大学病院 看護部 副看護部長 貞方三枝子</p>
<p>【事業概要】</p> <p>長崎県の地域の医療機関で勤務する看護師や新人看護師に、質の高い看護教育の機会を与えるために、教育担当者・研修責任者らが中心となり、臨床の現場で実務研修を行う。受け入れ病院において、新人看護師に対しては、新人看護職員研修のガイドラインに沿った研修を企画・実施し、看護師等には指導者としてのキャリアアップを図るためにリフレッシュ研修を行う。この事業のために、看護師1名・事務職員2名（パート）を雇用する。</p> <p>＜事業目的＞</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 看護学生及び新人も含めた看護師が、長崎県下の病院など地域で働く看護職員となるために、マグネット病院の研修担当者や教育担当者らにより専門的知識や技術、態度を学ぶ。</li> <li>② 大学病院の指導者・研修担当者をはじめ、マグネット病院の教育担当者としてのキャリアアップのために、地域において看護教育を推進するための経験を積む。</li> </ol>	
<p>【平成 25 年度計画】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 研修受け入れ病院・部署への研修費用の支援</li> <li>② 地域の研修派遣病院への研修費用の支援</li> <li>③ 地域の病院へ専門看護師、認定看護師などスペシャリストによる出張研修および 3 病院各施設での公開研修の開催</li> <li>④ 長崎版：新人看護職員研修プログラムの公開研修開催</li> <li>⑤ 中堅看護師育成のためのキャリアアップ研修（合同企画）の開催</li> <li>⑥ 3 病院合同企画の講演会開催</li> <li>⑦ 看護学生を対象とした長崎で看護師として働く魅力を伝える研修会等の開催</li> <li>⑧ 新人や若手看護師の指導者育成のための研修会の開催</li> <li>⑨ 広報活動 <ul style="list-style-type: none"> <li>・長崎県看護協会</li> <li>・ホームページ</li> <li>・マスメディア（テレビ、新聞等）</li> <li>・地域の病院や九州地区国立大学病院、看護学校、看護大学への研修案内発送</li> <li>・当事業専用封筒やファイル、ポスターの作成および配布</li> </ul> </li> <li>⑩ 長崎県下約 20 病院の病院概要、教育体制などを掲載したリーフレット「長崎県 Nursing ガイドブック」を県内の看護大学や看護協会などへ配布</li> </ol> <p>以上を実施することにより、長崎県内の看護師や新人看護師に質の高い看護教育の機会を与え、看護師の県外流出防止を図る。</p>	

【平成 25 年度実績】

- ① 研修受け入れ病院（長崎大学病院・長崎医療センター・佐世保総合病院の 3 病院）に、研修会への参加費や研修物品購入など、研修費用の支援を行った。
- ② 長崎版：新人看護職員研修プログラムの 23 研修を公開し、のべ 121 人（長崎大学病院開催 97 人、佐世保市立総合病院開催 24 人）の新人看護師に対し、研修参加費を無料とし、研修費の支援を行った。
- ③ 地域の病院へ 3 病院各施設でのキャリアアップ研修を公開した。公開した研修数は 103 研修（長崎大学病院：75 研修、長崎医療センター：17 研修、佐世保市立総合病院：11 研修を出張研修として実施）で、参加者数のべ 1823 人（長崎大学病院：1514 人、長崎医療センター：41 人、佐世保市立総合病院：268 人）に対し、研修参加費を無料とし、研修費の支援を行った。
- ④ 地域の病院へ専門看護師、認定看護師などスペシャリストによる出張研修を実施した。開催した出張研修数は 11 研修（長崎大学病院：2 研修、長崎医療センター：9 研修）で、参加者数のべ 503 人（長崎大学病院：113 人、長崎医療センター：390 人）に対し、研修参加費を無料とし、研修費の支援を行った。
- ⑤ 3 病院合同企画として、2 つの地域（佐世保、長崎）で 2 つの講演会を実施し、のべ 600 人が参加した。両講演会とも満足度（満足及び大体満足）が平均 97% で大変好評だった。
- ⑤ 指導者育成のための 2 つの研修会を開催（のべ 149 人参加）、及び担当指導者 25 名を研修会に派遣した。
- ⑥ 看護職・看護学生を対象とした仕事に関する講演会を開催し、130 人が参加した。また、震災の講演会を開催し、120 人が参加した。
- ⑦ 以下の広報活動を行った。
  - ・新聞：当事業の目的や新人研修実施状況について、5 月 6 日付けの長崎新聞に掲載した。
  - ・長崎県看護協会：会報誌に当事業の活動内容について掲載した。また、協会だよりにより研修のお知らせ等を毎月掲載した。
  - ・ホームページ：長崎大学病院のホームページ内にバナーを設け、ホームページを開設した。
  - ・広報誌：長崎大学病院の「ぽんぺだより」、長崎医療センターの「長崎医療センター-NEWS」、佐世保市立総合病院の「かのこゆり」に掲載した。
  - ・ポスター：A3・A4、2 種の「長崎で咲かせよう！輝く未来」のポスターを作成し、県内や九州内の病院および看護大学・看護学校へ配布した。
  - ・ロゴ入り物品作成：クリアファイル、メモ帳を作成し、就職説明会等における看護学生や看護職員及び講演会・研修会の参加者に配布した。

佐世保市立総合病院 看護師のマグネットホスピタル受入

- ① インターネット配信を利用した研修会  
インターネット配信を利用した院内職員への研修会を行い、研修した職員が内容を地域の看護師へ還元する機会を設けた（⑤・⑥の出前講座）。
- ② 公開講座（院内開催）  
当院の新人看護研修を地域の小規模病院・介護施設等に公開した。
- ③ 出前講座（県北地区） ※中堅コース  
松浦・平戸市方面の看護師・介護士へ向けた公開講座を行った。
- ④ 出前講座（宇久島地域） ※中堅コース  
宇久島方面の看護師・介護士へ向けた公開講座を行った。
- ⑤ 出前講座（県北地域） ※中堅コース  
佐世保市付近の看護師・介護士へ向けた公開講座を行った。（①のフィードバック）
- ⑥ 出前講座（県北地区） ※管理者コース  
佐世保市近隣の看護師・介護士へ向けた公開講座を行った。（①のフィードバック）

事業6) 薬剤師のフィジカルアセスメント教育	事業責任者 長崎大学病院 薬剤部 副薬剤部長 北原 隆志
<p>【事業概要】</p> <p>チーム医療の中で個々の患者に最適な薬物療法を進めるため、医薬品による副作用を防止あるいは早期に発見し重篤化を防止するという目的で、薬剤師が「患者の状況を把握する」ことは重要であると考えられる。そのためには、カルテの閲覧など間接的な情報収集を行うと共に、必要に応じて脈拍や血圧等のバイタルサインの測定や触診、視診といったフィジカルアセスメントによって患者から直接的に情報を得る行為が不可欠である。</p> <p>そこで長崎県下の病院・薬局の薬剤師を対象に、フィジカルアセスメントの意義と測定・評価スキルを修得することを目的としてフィジカルアセスメント修得コース（12回シリーズ）を実施する。</p>	
<p>【平成 25 年度計画】</p> <p>① 事業を推進する薬剤師・医師への支援 通信費、会議費</p> <p>② 事業に協力する医師等（研修講師）への支援 講師謝礼、アシスタント雇用経費、講習資材費</p> <p>③ フィジカルアセスメント教育に関する書籍、消耗品の購入等の支援 テキスト購入費、聴診器等機器購入費</p>	
<p>【平成 25 年度実績】</p> <p>平成 25 年 5 月 14 日からフィジカルアセスメント修得コースを開始し、平成 26 年 3 月 18 日まで計 12 回の研修会を実施した（第 1 回；フィジカルアセスメントの概要、第 2～4 回；フィジカルアセスメントの基礎、第 5 回；腹部のフィジカルアセスメント、第 6 回；皮膚領域のフィジカルアセスメント、第 7 回；循環器のフィジカルアセスメント、第 8 回；精神神経領域のフィジカルアセスメント、第 9 回；呼吸器のフィジカルアセスメント、第 10 回；医療機器の見方、第 11 回；嚥下のフィジカルアセスメント、第 12 回；総括）。病院勤務薬剤師 20 名、薬局勤務薬剤師 4 名が参加し、全員すべての研修をクリアし、修了証書を授与した。研修には医学部 5 年生もアシスタントとして雇用した。計画通り基金を講師費用、アシスタント雇用費、テキスト購入費、研修用医療機器購入等に充て、研修コースを運営することができた。</p>	

<p>事業7) 女性医師・医療人のサポート</p>	<p>事業責任者 長崎大学病院 メディカル・ワークライフ バランスセンター 伊東昌子</p>
<p><b>【事業概要】</b></p> <p>長崎県内の医療機関に勤務する医師にとって働きやすい環境を整えることを目的として、女性医師(等)の就労維持・復帰支援をおこなう。まず、拠点病院として大学病院内センターが事業を展開し、24年度には長崎医療センター、25年度には佐世保市立総合病院がホスピレート認証を取得するよう指導協力を行い、県内の医療機関で勤務する医師の働き方を支援する3拠点病院体制を築く。</p> <p>具体的な事業内容は、</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① キャリアサポート：キャリア支援のためのコンサルティング、復職トレーニング、講演会や懇話会などのイベント案内</li> <li>② 拠点病院支援情報：拠点病院支援システムを構築</li> <li>③ 地域就労支援情報：県内医療機関の就労支援情報についてホームページを通して案内、就労希望などのコンサルティングに応じる。</li> <li>④ mixi を使用した交流コミュニティーサイトを構築、活性化する。</li> </ol>	

<p>事業8) 救急救命士等の育成</p>	<p>事業責任者 長崎大学病院 救命救急センター センター長 田崎 修</p>
<p>【事業概要】</p> <p>近年、災害医療、蘇生医療、外傷診療等の高度化に伴い病院前救護の専門性も高まってきた。本事業は、長崎県の救急医療を担う 3 拠点病院において救急救命士の育成を行うことにより、病院前救護の質をさらに向上させるとともに、長崎で救急救命士を目指す人材の増加を目的とする。</p>	
<p>【平成25年度計画】</p> <p>平成25年度は、県北、県央、長崎地域において救急救命士の育成や病院前と病院との連携強化を促進する。</p> <p>①長崎地域の事業支援</p> <p>長崎大学病院では平成22年に救命救急センターが発足した。さらに、外傷センター、脳卒中センターの開設に続き、ドクターカーの運用が開始されその機能は強化されつつある。これに伴い救急救命士との連携強化も重要度を増してきた。平成25年度は、救急活動記録票やウツタイン記録を用いて円滑な救急医療体制の構築に必要な救急救命士の役割を明らかにし、教育や訓練を行う。その事業を支援する。</p> <p>②県央地域の事業支援</p> <p>長崎医療センターを中心に、ドクターヘリの活用等を通じて救急医療は既に軌道にのっている。さらなる充実のために救急救命士の果たす役割を解析し、そのための教育や訓練の費用を支援する。</p> <p>③県北地域の事業支援</p> <p>平成24年4月に佐世保総合病院に救命救急センターが開設され県北の救急医療システムの中核となった。1年を経過した時点で、円滑な救急医療システムとするための課題を明らかにし、今後必要となる救急救命士の教育や救命救急センターとの連携に関する事業を援助する。</p>	

【平成25年度実績】

長崎大学病院 救命救急センターの実績

1. 平成25年7月26日、第一回救急医療研修会を開催し、救急救命士をはじめ医師、看護師等63名の参加を得た。特別講演には、兵庫県災害医療センター高度救命救急センター 救急部長松山重成先生、および関西医科大学救急医学講座准教授中森靖先生を迎え、松山先生には「外傷患者の診かた最上級者編～体幹外傷によるショック～」、中森先生には「IVR-CT 変える重症外傷患者に対する初期診療」というタイトルで講演を頂き活発な討論を行った。また、11月29日には第二回救急医療研修会を開催し、参加者は62名であった。佐世保市で起きた硫化水素中毒事故に関し、現場対応と診療にあたられた佐世保市消防局中央消防署長村岡昭治氏、および佐世保市総合病院救急診療科診療部長松平宗典先生を迎え講演と討論を行った。
2. 平成24年度に引き続きドクターカーを運用し昨年度に比較して出動件数も増加した。平成25年度は平成26年2月末日現在で100件の要請があり、キャンセルを除く75件に出動した。ドクターカー出動時は研修中の救命士も同乗し医師とともに病院前治療に参加し研修を行った。
3. 長崎市消防局から26名の救急救命士の研修を受け入れるとともに、東亜大学(2名)、公務員ビジネス専門学校(3名)、および救急医療財団(2名)より救急救命士を目指す実習生を受け入れた。救急救命士を目指す実習生を受け入れた。具体的に行った実習は、心肺停止患者に対する胸骨圧迫や薬剤投与に加え、気道シミュレーターを用いた気道確保トレーニング、救命センターに入院している重症患者のケア(気管吸引、体位変換、清拭、バイタルサインや尿量のチェック等)である。

長崎医療センター 救命救急センターの実績

1. 救急救命士養成学校病院実習(2週間)、学生指導4名、ELSTA研修所病院実習(1週間)6名、救急救命士就業前研修(2週間)6名、救急救命士再教育(5日間)24名の参加を得た。
2. 上記、病院実習の一環として、研修医と合同のシミュレーション実習や薬剤投与認定救命士の評価時に、シミュレーターを用いた薬剤投与の総合評価を実施した。H24年度末に、気管挿管や静脈路確保シミュレーターが配置されたので、H25年度には病院実習中に挿管や薬剤投与の実習に利用した。今年度は、小児の挿管のトレーニングが不足しているとのことで、小児挿管トレーニングセットを購入した。次年度以降で、活用したいと考えている。

佐世保市立総合病院 救命救急センターの実績

1. 救命救急センター研修会の開催

日時：平成26年1月31日（金）18：30～20：00

参加人数：124名(当院看護師66名、救急告示病院看護師17名、その他病院看護師4名、佐世保市消防局26名、平戸市消防局2名、松浦市消防局4名、当院事務員5名)

テーマ：「救命救急センター看護師における教育システムの構築と救急隊との連携について」講師：聖路加看護大学 成人看護学准教授 宇都宮明美 氏

2. 救急救命士指導医師の学会参加による研鑽

3. 薬剤投与実習受入1名、救急救命士養成課程実習受入4名、気管挿管実習2名、救急救命士再教育病院実習受入11名、長崎県検証票検証21件、気管挿管認定救急救命士再教育への講師派遣1件